古河赤十字病院広報誌

雪華

ゆきはな

ご自由にお持ち下さい
Take Free

2022年 Vol. 41
新春号

雪華の由来 古河藩主・土井利位が刊行した「雪華図説」にちなみ、当院と地域の繋がりをこの誌名に込めています。

- ◆ 院長年頭挨拶
- ◆ 看護部長年頭挨拶
- ◆ 新型コロナワクチン接種への取り組み
- ◆ 特定行為看護師活動紹介

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
古河赤十字病院

院長年頭所感

古河赤十字病院　院長　小山　信一郎

みなさま、明けましておめでとうございます。

この原稿を書いている2021年11月15日は、COVID-19の第５波がほぼ終息しておりますが、これをお読みになっているころにCOVID-19がどうなっていますでしょうか？年頭に当たりCOVID-19に振り回された2年間を振り返ってみたいと思います。

昨年2月にダイヤモンドプリンセス号から2名の患者さまを引き受けてから、2021年10月末までに累計入院患者さまを約400名を受け入れました。この2年間、全ての職員が、十分な感染対策を行いましたので、幸い院内クラスターの発生を認めませんでした。特に第５波では、茨城県からの要請で４B病棟50床すべてコロナ病床として提供致し、また同時期外来においては、メディカルチェック等1日に30~40人の患者さまが保健所からの指示で来院されました。全ての職員にこの感染症に対して十分な対応を取っていただきました。さらにCOVID-19ワクチン接種は、古河市からの依頼により2021年3，4月の医療従事者の優先接種から始まり、5月23日から65歳以上の高齢者、8月23日からは、64歳以下の市民、のべ約24,000人接種を行いました。この事業に対しても、医師、看護師のみならず多くの職員の協力により11月12日で無事終了致しました。あらためまして接種を受けた方と職員の御協力に感謝申し上げます。

このように、行政からの依頼に対して、当院の際立った地域への貢献に対して、茨城県、および古河市から当院職員へお礼状がまいりました。当院の理念に「日本赤十字社の使命と責任を持ち、地域の皆さまの健康を守る最良の医療を提供します。」とありますが、今回当院は、この理念に沿った行動ができたと自負しております。どのような災害、感染症に対しても対応できる力があると確信致しました。

新年も地域の方々が安心して生活できますよう、頑張ってまいりたいと思います。

看護部長年頭挨拶

古河赤十字病院　看護部長　佐伯　久美

2020年2月から始まった新型コロナウイルス感染症対応から間もなく2年となります。この間、古河赤十字病院では、院内感染を起こすことなく約400名にも上る新型コロナウイルス感染症を患った方への医療看護、ならびに延べ約24,000人のワクチン接種に尽力して参りました。これはひとえに、地域住民の皆様や開業医の先生方、当院と連携して下さっている各施設関係の皆様のご理解とご協力のおかげであると実感しております。

一方で、やむを得ないこととはいえ、一部診療をお断りする事態となったことに対し、心よりお詫び申し上げます。地球環境の変化とともに、今後もいつ新興感染症が起こるかわかりません。いかなる状況下においても、地域の皆様の命と健康をお守りできるよう、引き続き組織強化に努めて参りたいと考えております。

さて、看護部では「思いやりのある看護を通し、患者様との信頼関係を築きます」の理念の下、2020年3月からセル看護提供方式® を導入いたしました。これは、患者様のベッドサイドを基点とした働き方です。傍にいるからこそ、患者様の思いに気づき、感じ取れるよう、尚一層、患者様目線にたった寄り添う看護を実践していきたいと考えております。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

新型コロナワクチン接種への取り組み

受 付

接 種 者 待 機

ワ ク チ ン 充 填

ワクチン充填に携わって（薬剤部）

古河市からの新型コロナワクチン集団接種依頼により、薬剤部では、ワクチン充填業務を行いました。調製数は１日最大で240人分と多い日もありましたが、部署内で調製マニュアルを作成し、安全安心を第一に接種者の皆さまに提供することができました。

国から支給されるシリンジ（注射筒）や針が頻繁に変更される中、職員同士で器具の特徴を共有し、集団接種全体の流れに影響が出ない対応を心がけました。また、茨城県の「ワクチン廃棄ゼロへの取組み」がすすめられている中、“ワクチンを無駄にしない”調製運用を行うことができました。

医 師 問 診

ワ ク チ ン 接 種

当院では、古河市からの要請を受け、新型コロナワクチン接種を実施いたしました。

2021年春の医療従事者への接種を皮切りに、65歳以上の高齢者の方、その後、64歳以下の方への接種を実施し、職員が一丸となり、地域の皆さまの「安全・安心」を第一に、各担当業務を遂行いたしました。

誘導スタッフとして（事務部）

ワクチン接種期間中は、1日200名以上の方が当院へ接種にお越しになりました。

院内が出来るだけ密にならず、接種者の皆さまに何事もなくお帰りいただけるように、院内の各所で誘導スタッフがご案内しました。

事務部、医療技術部など様々な部署から集結したスタッフが、無線で連絡を取り合うなどして、接種会場が混みすぎず空きすぎず、滞りなく接種が進むように案内する役割を担い、どなたにもわかりやすく、安心していただけるご案内が出来るよう心掛けました。

会場案内

ワクチン充填

接種準備

ワクチン接種

ワクチン接種の支援に関わって（看護部）

看護師としてワクチン接種や接種後の状態観察、それに伴った対応などを行いました。

接種者の皆さまがより安全な方法でかつ、注射への苦痛を軽減し実施できるように、ワクチン接種開始前には注射手技を確認し準備を進め、接種支援を重ね、注射を行う中でマスクの下では笑顔を忘れず、声をかけながら行えるようにもなりました。接種を受けた方からは「もう終わったの？」「痛くなかった」等、声をかけて頂けました。

また、接種後には副反応発生による経過観察時間があります。そのときの質問に対しても一つひとつ対応を行い、帰宅後の不安にも対応しました。

より多くの方が安心した生活ができるよう支援を実施し、接種がよりスムーズに行うことができるように、スタッフ全員のチームワークで取り組むことができました。

地域医療連携室
連携室だより
☎0280-23-7090（直通）

知ってますか？「病院」と「クリニック」の違い

皆さん、「病院」と「クリニック」の違いをご存知でしょうか？
役割や違いを知ってスムーズな受診が出来るよう、その違いをご紹介します。

ポイント1「2つの違い」

医療機関は、「病院」と「診療所」（クリニックや〇〇医院）に分けられます。その区分については、病院は20床以上の病床を有するものとし、診療所は病床を有さないもの又は19床以下の病床を有するものとしています。（医師法）

ポイント2「どっちにかかればいいの？」

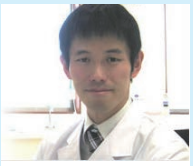
クリニックは、病気・けがや慢性期疾患（症状は落ち着いているが、引き続き治療やお薬の処方が必要な病気やけが）を中心に診察します。地域に根ざしており、お住まいの近くでご自身の症状や環境にあったクリニックを選択でき、比較的待ち時間も少なくスムーズな診察が可能です。

病院は、急性期疾患（短期間で重症化する可能性がある病気やけが）や精密検査が必要な疾患を診ることが出来ます。主に、クリニックからの紹介でかかる場合が多く、より専門的な検査や治療が行われます。そのため、受付からお会計までお時間がかかる場合が多いです。病状が落ち着いたらクリニックへ紹介し定期的なフォローをお願いしております。

ご自身の症状に合わせて適切な医療機関選びが大切ですね♪
「どこにかかればいいかわからない」という方は患者サポートセンターへ。
ご自身に合った医療機関選びのお手伝いをいたします。
→当院玄関入り口にも各医療機関リーフレットが置いてありますので、ご自由にお取りください。

かかりつけ医ご紹介

いなば内科クリニック



紹介文

私は自治医科大学内分泌代謝科にて医学博士を取得後、特任講師をへて古河赤十字病院に転勤し、内科副部長として主に糖尿病、脂質代謝異常、高血圧などの生活習慣病、甲状腺などの内分泌疾患の外来・入院診療をおこなってまいりました。その後2010年にゆかりある野木町に開業し、地域の糖尿病・内分泌専門医として、かかりつけ医のファミリードクターとして、幅広く診療しております。

地域の皆さまへのメッセージ

当院は糖尿病、脂質異常症、高血圧、痛風などの生活習慣病、甲状腺などの内分泌疾患の専門医診療のほかにも、内科全般、小児科診療を幅広く診療しています。また大人や小児の予防接種、健診もおこなっています。高度な専門医診療、入院治療が必要と思われる場合は古河赤十字病院にご紹介させていただいております。これからも地域の専門医として、かかりつけ医として、研鑽を継続してまいります。

基本情報

- **院　　長**：稲葉　利敬
- **住　　所**：〒329-0111 栃木県下都賀郡野木町丸林583-3
- **診 察 科**：糖尿病内科、内分泌内科、内科、小児科
- **電　　話**：0280-57-0770
- **ホームページ**：http://www.inaba-naika.com
- **診療時間**：月、火、木、金曜日：午前9時から12時、午後3時から6時　水曜日：午前9時から12時　土曜日：午前9時から午後1時

～「かかりつけ医」からの紹介状をご持参ください～

＊紹介状ご持参いただくメリット。
- 医師が患者さまの病状を迅速に把握できる。
- 検査・結果を「かかりつけ医」と連携し適切な医療の提供が可能。
- 「選定療養費」(注)がかからない。

（注）2020年4月の診療報酬改定により、200床以上の地域医療支援病院は、他の医療機関等からの紹介状を持たない初診の方から診療費の他に5,000円以上の金額のお支払いをしていただくことが義務化されました。

新任常勤医師紹介

内科　大原 健 医師

自治医大から参りました。主に、腎臓や透析を中心に診療させていただきます。少しでも皆様のお力になれるよう努めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(出身地) 栃木県
(趣　味) テニス、釣り

特定行為看護師活動紹介

2025年には、団塊の世代が75 歳以上となります。

高齢化が進み、医療の高度化・複雑化が進む中、質が高く安全な医療を提供するため、チーム医療の推進が必要となります。医療資源が限られる中で、其々の医療従事者が高い専門性を発揮しつつ、互いに連携し、患者さまの状態に応じた適切な医療を提供することが求められています。

こうした中で、看護師には、患者さまの状態を見極め、必要な医療サービスを適切なタイミングで届けるなど、速やかに対応する役割が期待されています。当院では、現在2名の特定行為研修修了者が活動しており、他数名が研修を受講しております。

今後も地域の皆さまに安全安心な医療の提供ができるように尽力していきます。

※ 特定行為は、診療の補助であり、看護師が手順書により行う場合には、実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能が特に必要とされる２１区分３８行為です。医師が作成した手順書に従い、病状の範囲内で看護師が診療の補助を行います。

患者さまへのメリット	看護師のメリット	医師のメリット
特定行為研修を受けた看護師が、患者さまの状態を見極めることで、タイムリー な対応が可能になります。 また、患者さまやご家族の立場に立ったわかりやすい説明により「治療」と「生活」の両面からの支援の促進につながります。	医学的根拠に基づいた臨床推論や臨床薬理、フィジカルアセスメントを学び、看護と医学の視点から患者さまの状態を理解できます。 また、疾患・症状・生活を含めた患者さまやご家族の全体像をアセスメントすることができ、よりよいケアが提供できるようになります。	特定行為研修を受けた看護師に手順書による包括的指示をすることで、外来診療や処置、手術中であっても、看護師が患者さまの状態を見極め、タイムリーな対応が可能になります。それにより、医師の業務負担軽減につながります。

長澤特定看護師

2018年に特定行為研修を修了し、9区分21行為の特定行為が行えるようになりました。研修修了当時は、世間での特定行為研修制度についての認識があまりなく、周囲の理解や協力を得るのが大変でした。しかし、院内で活動しやすいように勤務への配慮や医師の指導により、少しずつ活動が定着してきました。

今後、高齢化が進む中で、チーム医療の推進や医師の負担軽減が重要になり、看護師は専門性の高い役割を求められます。

日々、質の高い医療サービスが提供できるように努力していきたいと思います。

古河赤十字病院の理念及び基本方針

＜病院理念＞ 日本赤十字社の使命と責任を持ち、地域の皆さまの健康を守る最良の医療を提供します。

＜基本方針＞
1.日本赤十字社の人道・博愛の精神を基本とします。
2.災害時の医療救護活動に積極的に参加します。
3.安全・安心な医療を提供します。
4.地域の医療機関・介護施設との連携の強化をします。

日本赤十字社 Japanese Red Cross Society　古河赤十字病院

〒306-0014　茨城県古河市下山町 1150 番地　TEL 0280-23-7111㈹／ FAX 0280-23-7120㈹
ホームページ http://www.koga.jrc.or.jp/　休院日：日曜、祝日、第 2・第 4・第 5 土曜日、11/1（創立記念日）、12/29 ～ 1/3（年末年始）

古河赤十字病院　検索